

2015 年 6 月 1 日

第 1 4 回上田市公共交通活性化協議会（兼上田市地域公共交通会議）議事録

会長あいさつ 上田市政策企画部長 金子会長（以下 金子会長）

変更委員紹介 事務局（上田市政策企画部交通政策課 藤澤課長 以下 藤澤課長）

資料確認 藤澤課長

議題

(1) 上田市公共交通活性化協議会協議事項について

ア 上田市公共交通活性化協議会設置要綱（案）について

事務局（上田市政策企画部交通政策課 柳沢係長 以下 柳沢係長） 資料 1 資料説明

質疑等 無し

承認

イ 平成 2 6 年度決算報告について

事務局（上田市政策企画部交通政策課 倉澤主任 以下 倉澤主任） 資料 2 資料説明

監事（橋詰委員） 会計監査報告

質疑等 無し

承認

ウ 平成 2 7 年度予算（案）について

事務局（倉澤主任） 資料 3 資料説明

質疑等 無し

承認

※（金子会長） H27 年度予算については、公共交通網形成計画素案策定等業務委託費がござい
ますので、予算が増えております。

エ 路線バスのダイヤ改正について

事務局（倉澤主任） 資料 4 資料説明

真田方面、豊殿線について平成 27 年 10 月よりダイヤ改正を行う。

詳しくは、事業者より説明していただく。

質疑等 無し

承認

オ まちなか循環バス運行計画について
事務局（柳沢係長） 資料5 資料説明

質疑御応答

（質問1：長野県タクシー協会 飯島副会長 以下 タクシー協会 飯島副会長）

平成26年に新たに施行された一般乗用旅客運送事業法（タクシー振興）の台数と活性化に関する法律の一部が改正された。これによりタクシー台数の削減などで企業運営が厳しくなっている。さらに需要減により更なる台数の削減が迫られることになり今後益々厳しくなる。

先の連休でも長野、松本、軽井沢は観光客等の誘客により需要が増加しているが上田はタクシープールの先頭車両が30分たっても動かない状況でとてもさみしく感じた。さらに運賃低減バスの実証運行が開始し、今後益々、タクシー需要が減ってしまう。

- ① 3年後の運賃低減バスの目標として開始前の1.5倍を目指すと言っていたが達成しなかった場合はどのように考えているのか。
- ② 今回新たに新設するまちなか循環バスは、中心市街地を走行するため今後のタクシー需要にも影響が出てしまうと考えられる。設置予定の停留所は本当に地元住民からの要望なのか。また、運行日が休日（土日祝・春・夏）ということなので生活路線というより観光路線ではないか。

（回答1：藤澤課長）

- ① 平成26年10月から始まり1年半が経過し、現在20%弱の伸び率。
いずれにしても、運賃を安くしただけでは乗車数も増えていけないので、ダイヤ改正やバス停増設等いろいろと見直しをしてきたが、今後もまだ完ぺきではないので利便性の向上やPRを積極的に行っていきたい。また、皆様には3年の実証運行についての報告もしなければならない。この結果次第では考えていかなければならない。

（質問2：長野県タクシー協会 上小支部 中島支部長 以下 タクシー協会 上小支部 中島支部長）

運行日が休日であったり、フリー乗車券の導入等で生活路線というより、観光主体の路線ではないのでしょうか。もし仮に今回の新設路線が観光主体の路線であるならば、本協議会での協議事項としてはふさわしくないのではないかと。

（回答2：藤澤課長）

中心市街地を回るコンパクトな路線となっています。地域住民の要望があった中で利用者の多いであろうと考えたうえで休日を中心とした運行となっています。今後大河ドラマの影響等で上田を訪れる観光客が増える予想され、そういった方の利用も見込まれるが今回のルートや計画に当たってはあくまでも地域住民の生活交通を考えたいという設定となっている。

(国交省北陸信越運輸局長野運輸支局 坂本専門官 以下 坂本専門官)

中立的な立場から申し上げます。交通会議というのは観光路線を話し合う場ではなく、生活交通の確保維持のための会議であるというのが大前提である。先ほどのお話にもあったが、新たにまちなか循環バスを走らせることに対してタクシー業界の方がおっしゃることも理解はできる。タクシー業界の方が不安に思っている部分、公共交通は通院および通学等のために平日に動かすことが一般的であるがそれを土日祝日に走らせるということなのでもう少し踏み込んだ話し合いが必要ではないか。そうすればご納得して理解していただけるのではないか。運賃低減のこともあるが、この会議で決めたことがこの後の資料にもあるが国のフィーダー補助の予算にもつながってくるので皆さんが納得することを出し合ってくださいこの後の話し合いにつなげていってほしい。

(金子会長)

先ほど、交通会議の在り方ということでお話がありましたが、公共交通は各交通機関（バス、タクシー、鉄道）の良い点をつなげ合わせ、住民の方が利便性を持ちそれぞれの交通手段を使い豊かな生活を送るためにそれぞれ成り立っている。まちなか循環バスのルート設定については、町の中にお住みの方がバスを使い商店街方面に出てきていただきたいという思いで設定した。運行日が土日祝あるいは春休み、夏休みと期間限定になっていることに疑問を抱いたのではないか。このことは、大河ドラマの放送が始めると県内外から来る観光客の自家用車の乗り入れが増え渋滞が予想され、城跡公園周辺も駐車場が少なくすぐに埋まってしまう。桜の期間中も国道 18 号から上田駅前道の道が土日祝日は動かなくなる。そのため、なるべく町の中に車を入れないで公共交通機関を利用してもらいドラマ放送中の期間の移動手段の確保という意味で土日祝日の運行としたことを理解していただきたい。

(補足：藤澤課長)

新たにバス路線を設定するにあたり、ルート上の自治体へお話ししたところ、住民の方たちからは好感触を得た。

(タクシー協会 飯島副会長)

観光路線という感が否めないため、ここで決を採るのではなく分科会での協議を提案する。

(柳沢係長)

今まで中央地域協議会や関係自治体へ伺い意見を頂戴してきた。その中で特に高齢者の方の買い物や通院等の足が必要だという強い要望が以前からあった。中央地域協議会においては、20名の委員（自治会、各種団体、町づくり団体等）がいるがその方たちからも中心市街地を回るこのような新たな移動手段が必要だという強い要望があった。あくまでも生活路線として充実させたい。国からの指導内容として上田駅を中心に中心市街地を回るため様々な施設や観光スポットも点在しているため外からの利用者数を増やすことによって公共交通の活性化を図るということは国の方向性でもある。地域内が問わず上田駅に来ていただけてたくさん乗っていただきたい。また、現在上田市ではスマートウェルネスシティということで健康づくりということをテーマに公共交通の充実を図ろうということも視点に置いた取り組みもしている。さまざまな公共交通機関にたくさん乗っていただけてこれからの持続可能な公共交通網を形成していくために中心市街

地と地域のバランスを取りながら市全体の公共交通の総合的な利用促進、町づくり、健康促進という視点でも本計画を進めていきたい。

(タクシー協会 飯島副会長)

先ほど事務局から説明があったが、ご承知だと思うが、まずは中心市街地まで歩きましょうというを上田広域連合会より出ている。歩けと言っているのに公共交通機関を使いましょうということに矛盾を感じている。

(質問 3：タクシー協会 上小支部 中島支部長)

まちなか循環バスの路線と既存路バスとの重複についてご説明願いたい。

(回答 3：藤澤課長)

市街地循環バス（青バス、赤バス）の一部で重複している。重複箇所は、市役所前～二中の坂、木町～原町～スクランブル交差点、海野町～横町～科野大宮社で部分的に重複している。

(質問 4：タクシー協会 上小支部 中島支部長)

既存路線を変更して対応はできないのか。

(回答 4：藤澤課長)

既存路線は、大きなルートを回るが、中心市街地を回る路線長 7 km のコンパクトな路線になっている。

(金子会長)

先の説明で誤解があるといけませんが、大河ドラマが始まって、中心市街地に観光客の自家用車がたくさん入ってくると、住民が動けなくなる。なるべく自家用車の使用を控えて公共交通を使っただきたいという思いでご説明した。この路線が観光客用ということではなくあくまでも地域住民の方の移動手段のためをお願いしたいものである。

各方面からの意見として

(千曲バス株式会社 三浦部長 以下 千曲バス 三浦部長)

運行の中身については、事務局の説明の通り。フリーパスについては、他の市町村でも導入しているところもある。一回降りて都度お金を払うのではなく、何度も乗っていただきたいために設定した。

(上田警察署 交通課 林係長)

立場上、どちらが良いとは申し上げられないが、公共交通の活性化という趣旨に沿った内容であれば良いのではないか。

(上田婦人団体連絡協議会 小宮山会長)

高齢者が買い物に行くにも苦勞すると最近よく耳にする。この点からも今回のまちなか循環バスの新設には賛成。運行時刻も良い。

(金子会長)

タクシー協会より分科会の開催の提案が出たがそれについてはどうか。

(上田市自治会連合会 丸子地域代表 久保田氏)

丸子地域の地域協議会でまりんこ号を見てきているのだが赤字である。運行することがどれほどの効果があるか疑問に思っている。見ていると1台あたり1人とか0人の時もある。そういったことにお金をかけることが良いことなのか。むしろデマンドの方が良いのではないか。乗降調査をしているといっても本当に少ないと思う。新設路線に関してはタクシー業者の仕事を奪ってしまうことにもなるのでもう少し議論した方が良いのではないか。

(質問 5：長野県交通政策課 大井氏)

- ① 中心市街地の活性化や渋滞緩和についてはメリットがあると思う。生活交通の活性化の部分については毎日でないにしろ平日も走らせてみてはいかがか。
- ② 使用される車両については、住民のニーズに合ったものを設定していただきたい。
- ③ 平日も走らせてほしいというニーズはどのくらいあるのか。

(回答 5：柳沢係長)

車両については、小型車両を予定している。

生活交通の活性化については、運行日については資料のとおりですが、一定期間運行してきに利用状況等内容を検討し、必要なところは内容を変更しより良いものにしていきたい。また、住民の方の意見を取り入れて利便性を高め、みんなで育てていきたい。

(質問 6)

- ① バスは何人乗りなのか。
- ② 平日のニーズについての利用調査は行ったのか。

(回答 6：柳沢係長)

- ① 最大 36 人乗り（席数 11）

(回答 6：藤澤課長)

- ② 現段階では行っていない。いずれにしても当面は本計画通り行い、実態調査も並行して行っていくので状況を見ながら検討する。

(金子会長)

分科会開催の提案も出ているが事務局としてはどのように考えているのか。

(藤澤課長)

今後の予定として 10 月 1 日運行に向け、本協議会で審議していただいた後、運行に向けた申請を事業者様に行ってもらって予定している。正直申し上げると、さらに時間を取ることで 10 月 1 日運行が難しくなってしまいます。出来ることなら本協議会で決めたい。

(飯島副会長)

10 月 1 日に間に合わせたいという気持ちはよくわかるが、もう少し慎重に議論をしていかなければならない。分科会での再協議を望む。

(藤澤課長)

10月1日の運行に向けては、今月中に県のバス部会に案件をかける必要がある。再度協議会を開くのは難しい。先ほど申し上げたとおり、中心市街地の活性化および生活交通への位置づけを持った路線と考えているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

(金子会長)

本案件を分科会に一任させていただき、分科会の結論をもって、今後の方向性を出すこととした。分科会のメンバーは、バス事業者、タクシー事業者、住民、行政で協議し、分科会の結論をもって、協議会の結論とさせて頂きたい。

承認

- カ 平成27年度地域間幹線系統確保維持計画について
事務局(倉澤主任) 資料6 資料説明(8ページ)
表中の輸送人員の年度は「行政年度(4月から翌年3月)」である。
上田バス 舟見常務 資料6 資料説明(9~16ページ)
千曲バス 三浦部長 資料6 資料説明(17~26ページ)

質疑等 無し

承認

- キ 上田市生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)について
事務局(倉澤主任) 資料7 資料説明
上田バス 舟見常務 資料7 資料説明
千曲バス 三浦部長 資料7 資料説明

質疑等 無し

承認

- ク 豊殿地区循環バス無料月間の実施について
豊殿地区循環バス運営委員長 杉崎委員長 資料8 資料説明

質疑等 無し

承認

ケ 夏休みキッズパスについて
事務局（倉澤主任） 資料9 資料説明

質疑等 無し

承認

コ 公共交通網形成計画について
事務局（柳沢係長） 資料10 資料説明

質疑等 無し

閉会 金子会長お礼

以上